

令和6年2月 斐伊川水系水質情報

令和6年1月(宍道湖3日・中海6日採水)							単位:mg/l(Chl-a: µg/l)			
項目	層	S-3(宍道湖湖心)			N-6(中海湖心)			米子湾中央部		
C O D	全層	4.5	△	平 年 並 み	2.8	○	良 好	3.0	○	良 好
全窒素	上層	0.55	△	平 年 並 み	0.33	○	良好(平年並み)	0.49	△	平 年 並 み
全リン	上層	0.037	△	平 年 並 み	0.026	○	良好(平年並み)	0.029	○	良好(平年並み)
Chl-a	上層	19	△	平 年 並 み	16	△	平 年 並 み	8.3	△	平 年 並 み
塩化物イオン	上層	2,320	△	平 年 並 み	8,650	△	平 年 並 み	5,340	○	やや低い
	下層	4,560	×	やや高い	16,800	△	平 年 並 み	12,700	△	平 年 並 み
溶存酸素	上層	13.4		やや高い	12.0		やや高い	12.8		やや高い
	下層	7.6		平 年 並 み	7.1		平 年 並 み	4.3		やや低い

前月との比較		宍道湖湖心		中海湖心		米子湾中央部	
項 目	層	前月	前月と比較して	前月	前月と比較して	前月	前月と比較して
C O D	全層	4.7	横ばい	2.6	横ばい	3.1	横ばい
全窒素	上層	0.49	やや上昇	0.31	横ばい	0.53	横ばい
全リン	上層	0.036	横ばい	0.026	横ばい	0.034	横ばい

宍道湖の透明度は2.0mから1.2mと下降し、平年並み。中海の透明度は3.3mから2.1mと下降し、平年並み。米子湾の透明度は先月と同様に1.9mと横ばいで、平年並みとなっている。

- 【評価基準】
 前年まで過去10年間(平成19年までは5年間とした)のデータについて統計処理を行い、それに基づき下記の表現とする。
1. 水質値について

	↑	★	<非常に高い>
平均値＋標準偏差値の3倍	↑	☆	<かなり高い>
平均値＋標準偏差値の2倍	↑	×	<やや高い>
平均値＋標準偏差値 10年間平均値 平均値－標準偏差値	↑	△	<平年並み>
	↓	○	ただし、環境基準値以下の場合<良好>とする。 <良好> <やや低い> (塩化物イオン)
平均値－標準偏差値の2倍	↓	◎	<かなり良好> <かなり低い> (塩化物イオン)
平均値－標準偏差値の3倍	↓		

2. 水質変化について
- 前月値±標準偏差値以上、以下の変化…… 上昇、下降
 注) 平均値±標準偏差値 ……全体のおよそ68.2%
- 前月値±標準偏差値の1/2以上、以下の変化…やや上昇、やや下降、横ばい
 平均値±標準偏差値の2倍…全体のおよそ95.5%
- 前月値±標準偏差値の1/2以内の変化…横ばい
 平均値±標準偏差値の3倍…全体のおよそ99.7%